

## 第2学年 道徳科学習指導案

指導者：教諭 武田 ゆう子

### 1 主題名 公平な態度で C-（11）公正，公平，社会正義

### 2 主題について

#### （1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、C「主として集団や社会との関わりに関すること」の「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること」と関連が深い内容である。

人は、好きか嫌いかの判断基準によって自分の行動を決めることが多くある。特に、低学年の児童は、自分の好みや利害によって、ともすると公平さを欠く言動をとることがある。自分とは異なる考え方を受け入れないことや否定することがよくないと理解していながらも、人間的な気持ちの弱さから、好き嫌いで行動してしまうのである。いじめの問題もこのような好き嫌いや偏見などが原因となっていることが少なくない。したがって低学年の段階から、私心にとらわれず、だれにでも分け隔てなく接することの大切さや、自分と他との違いを差別するのではなく受け入れることの大切さについて考え、理解を深めていくことが重要だと考え、本主題を設定した。

#### （2）児童について

本学級は、男子8名、女子5名、計13名の学級である。本時の授業にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。（7月17日実施 男8名 女5名 計13名 質問紙法）

A（だいたい身に付いている） C（あまり身に付いていない）	B（どちらかといえば身に付いている） D（不足しているので今後身に付けたい）	A	B	C	D
正しいと思うことは勇気をもって行う。		8人	4人	0人	1人
嘘をついたりごまかしたりしないで明るく元気に生活する。		5人	4人	3人	1人
だれに対しても思いやりの心を持ち、親切にする。		9人	4人	0人	0人
広い心を持ち、自分とは違う意見や立場も受け入れることができる。		6人	6人	0人	1人

以上のような結果から、思いやりの心で相手に親切にすることが大切だという意識が比較的高いことが分かる。日常生活においても、友達が忘れ物をした時は「ぼくの〇〇を貸すよ」と言ったり、掃除の時間には「早く終わったから手伝うよ」と言って進んで手伝ったりするなど、親切にしようとする姿が度々見られる。一方で、気の合う友達との遊びに他の友達は仲間に入れられない様子が見られたり、話し合いにおいて意見の異なる友達と対立する様子が見られたりするなど、意識はあっても行動が伴わない児童もいる。

さらに、教材と同様に、給食の配膳の場面を想定して調査を実施した結果が以下の通りである。

（10月3日実施 男8名 女5名 計13名 質問紙法）

好きな友達に「給食を多くして」と頼まれても断る。	8人	2人	1人	2人
友達がだれかに給食を多く分けていたら注意する。	9人	2人	2人	0人

一部の児童には自分の好き嫌いで判断し、行動している様子が見られる。給食の場面において、実際に「ぼくの分を多くちょうだい」と給食当番に頼む児童がいて、言われるままに多く分けてしまう児童もいれば、「だめだよ、ずるいでしょう」とはっきり断ることができる児童もいる。

遊びの場面でも、あまり親しくない友達は遊びに交ぜなかったり、仲のよい友達に対してのみ有利になるようなルールを決めたりすることもある。それを見ていて不満に感じた児童が、事情を担任に訴えるということが多く見られる。好き嫌いを判断基準として行動することは、周囲に不快感を与えることに改めて気付かせ、どのように考えて行動すればよいのかについて深めさせる必要がある。

毎週金曜日の業前時間に実施している「対話タイム」では、様々な問いで対話を行っている。回数を重ねるたびに、「セーフティ」が守られるようになっていく。自分の考えを話すだけでなく、友達に質問したり、あまり発言の多くない友達の考えを聞きたいとコミュニティボールを渡したりしている。対話を通して、自分を見つめたり友達の考えを受け入れたりして、友達との関わりが深まっている。

### (3) 教材について

① 教材名 「大好きなフルーツポンチ」 出典：「新しいどうとく 2」 東京書籍

② 価値 C-（12） 公正、公平、社会正義

③ 教材について

給食の人気メニューであるフルーツポンチ。給食当番のぼくは、全員に同じくらいの量で配ることができるように、気を付けてよそい始める。しかし、仲よしの友達しゅんたが並んだ時、「みんなよりも多く入れてあげたい。そのかわり、けんちゃんは文句を言わないからけんちゃんの分を少なくしよう。」と思い、しゅんたの器にたくさんよそう。それを見ていたかおりが、「どうしてしゅんたさんの分だけ、そんなに多いの。」と指摘するという話である。

仲よしのしゅんたにだけひいきする「ぼく」の行動や、それを指摘したかおりの行動を考えさせることによって、だれにでも分け隔てなく公平に接することの大切さに気付かせることのできる教材だと言える。

④ 教材分析（別紙）

### (4) 指導にあたって

好き嫌いや利害にとらわれずに接することはとても大切なことである。自己中心的な考え方をしがちな低学年の児童に、他者の気持ちを思いやることの大切さや、公平にすることが大事だと分かっているにもかかわらず行動できない気持ちの弱さなどを、役割演技や心情スケールを活用して考えさせていきたい。

公平にすることの背景には相手への思いやりの気持ちがあることに気付かせたい。そして、公正、公平な態度が仲間を大切に、互いの信頼関係を深めることにつながることを感じさせられるようにしたい。

## (5) 研究の視点

【視点1】 道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業スタイルの工夫

### ① 自他との対話を促す支援の工夫

#### a 事前読み聞かせ

- ・事前に教材を読み聞かせておくことによって、教材への関心をもたせ、人物同士の関係について捉えることができるようにし、考えを深める時間を確保できるようにする。

#### b 役割演技

- ・「ぼく」役と「かおり」役で役割演技を行わせる。児童は即興的演技を行ったり、その演技を観察したり、役割を交代したりすることによって、自分や友達のかえ方、感じ方の違いを実感し、道徳的価値に対する理解を深めることができるようにする。
- ・演技をしている児童とそれを見ている観衆の児童で話し合わせることによって、道徳的価値のよさや実現の困難さ、多様さなど、道徳的価値の理解を深められるようにする。

#### c 心情スケール

- ・「ぼく」がしゅんたにフルーツポンチを多く分けた行為を許せるか許せないか、心情スケールにネームカードを貼り、その理由を発表させることによって、自分の立場を明らかにしたり、自分とは異なる見方・かえ方があることに気付いたりすることができるようにする。

### ② 「あすなろノート」の活用

- ・今日の学習でどんなことが大事だと思ったかを「あすなろノート」に書かせることによって、自己理解を深めさせる。記述したことを交流させることによって、友達のかえ方を知り、多様な感じ方・かえ方があることを理解できるようにする。

## (6) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言①、②を踏まえ、役割演技を通して考えたことを発表させ、積極的に取り上げて、ほめたり、認めたりする。

提言③、④を踏まえ、本時はどんなことを考えるかを一人一人にしっかりと把握させるとともに、自分の行動や心情を振り返る時間を設定し、自分の考えをノートに書かせる。

## 4 本時の学習

### (1) ねらい

しゅんたにフルーツポンチを多く入れた「ぼく」と、それを指摘したかおりの行動を考えることを通して、自分の好き嫌いとらわれず、だれにでも分け隔てなく公平に接しようとする心情を育てる。

### (2) 準備物

①教師： 掲示用挿絵 掲示用短冊 心情スケール 役割演技用名札

②児童： 教科書 筆記用具 「あすなろノート」 ネームカード



人間  
理解

【予想される反応C（迷っている）】  
 ・一人にだけ多く分けるのはよくないと思うけど、「ぼく」のことを考えると責めるのはかわいそう。  
 ・本当は許せないことだけど、その時には許してしまうかもしれない。

・迷っている児童には、なぜ迷っているのかを問い返すことによって、気持ちの葛藤があることに気付かせる。

◎役割演技をして、しゅんたに多く入れた「ぼく」の気持ちと注意したかおりの気持ちを考えましょう。

【かおり】 どうしてしゅんたさんにだけ多く分けるの。

・役割を演じる時は、名札を首から下げないようにして、誰を演じているのかが分かるようにする。 ※①b

【ぼく】 少しぐらいならいいでしょう。

【かおり】 みんなの分が足りなくなったらどうするの。

・初めに教師が「ぼく」役を演じることによって、「ぼく」の身勝手な考え方や人間的に弱い心を表現し、問い返したり揺さぶったりするようにする。

【ぼく】 足りなくならないように、うまく分ければいいでしょう。

・かおりから注意されても、「足りなくならないように分ければ大丈夫」と安易に考える「ぼく」をどう思うかを、周りの児童に考えさせる。

【ぼく】 けんちゃんは文句を言わないからその分しゅんたに多く入れてもいいでしょう。

・「何も言わない人の分を少なくしていい」という考えについてどう思うか、周りの児童に考えさせる。

【かおり】 けんちゃんが文句を言わないからといって、けんちゃんの分を減らすのはよくないよ。

・少なく分けられたけんちゃんがどんな気持ちになるかを考えさせる。

【ぼく】 みんなにばれなければ大丈夫。お願い、内緒にしておいて。頼むよ。

・「他の人に知られなければいい」「知られると都合が悪いので黙っておいてほしい」と頼む「ぼく」の考えや行動についてどう思うかを周りの児童に考えさせる。

【かおり】 しゅんたさんにだけ多く入れていることを、先生に言うわよ。

・もしも、しゅんたや他の友達からも「多く入れて」と頼まれたらどうするかについて考えさせる。

【ぼく】 先生には言わないで。

・ひいきされるしゅんたの気持ちについて考えさせることによって、自分だけ特別扱いされることが、かえって迷惑になることもあるのだということに気付かせる。

	他者理解	<p>・「ぼく」の身勝手な考え方や行動によって、周りのみんなが嫌な思いをすることに気付かせる。</p> <p>◇役割演技で、演じたり見たりすることを通して、自分だったらどうするかという立場で考えていたか。 (発言)</p>
	他者理解	<p>○役割演技をしたり見たりしていて、考えが変わった人はいますか。心情スケールのネームカードを移動していいです。変わった理由を発表してください。</p>
	価値理解	<p>【許せる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しゅんたに「もう遊ばない」と言われるのが嫌で、多く分けてしまうかもしれない。</li> <li>・仲よしの友達だと、つついずるい気持ちでやってしまうかもしれない。</li> </ul> <p>【許せない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たとえ仲よしの友達でも一人にだけ多く分けるのはよくない。</li> <li>・多く食べたい気持ちはみんな同じなのだから、みんな同じ量にする。</li> </ul> <p>○これからの生活で、「公平」であるためには、どんなことが大事だと思いますか。</p>
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなに優しくすること。</li> <li>・みんなのことを考えること。</li> <li>・一人でも嫌な思いをする人がいないように、みんなで仲よくすること。</li> <li>・ずるいことをしている人がいたら、注意すること。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材から離れ、自分の生活を振り返って考えさせることによって、自分をより見つめることができるようにする。</li> <li>・机の前で円座を作り、対話ができるように設定することによって、安心して自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け入れたりできるようにする。 【提言①】</li> </ul>
まとめ 10分	自己理解 他者理解	<p>4 今日の学習で考えたことや心に残ったことを「あすなるノート」に書く。書いたことを発表し合い、互いの考えを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習でどんなことが大事だと思ったかをノートに書かせることによって、ねらいとする道徳的実践への意欲を高める。 ※②</li> <li>◇ノートに書くことを通して、公平にするこの大切さについて、自分のこれまでの体験から考えていたか。(あすなるノート、発言) 【提言③、④】</li> </ul>

(4) 評価

役割演技を通して、自分の好き嫌いにとらわれず人に接することの大切さについて考えていたか。

(5) 板書計画

大すきな フルーツポンチ

配膳をしている様子の絵

ほく 気をつけながらよそいはじめる

フルーツポンチの絵

心情スケール

かおりに注意されたほくの様子の絵

ほくはしゅんたのうっわにたくさん入れた

← →

- ・しゅんたはなかなよしだから。
- ・けんちゃんはおもくを言わないと思った。
- ・足りなくならなければ少しぐらい多く分けてもいいと思った。

・ずるいことはいけない。

・けんちゃんがかわいそう。

・同じじゃないといやな気持ちになる。

「こっへい」であるために、大じなことは・・・

- ・みんなにやさしくする。
- ・みんなのことを考える。
- ・みんなでなかよくする。
- ・ずるいことをしている人がいたらちゅういする。

教材分析表

教材名 「大すきなフルーツポンチ」 C- (11) 公正, 公平, 社会正義

ねらい しゅんたにフルーツポンチを多く入れた「ぼく」と、それを指摘したかおりの行動を考えることを通して、自分の好き嫌いにとらわれず、だれにでも分け隔てなく公平に接しようとする心情を育てる。

